

多胎妊娠における母児の臨床的観察

鹿児島市立病院周産期医療センター

外 西 寿 彦

多胎妊娠は周産期の合併症を伴うことが多く、母児の予後も単胎妊娠に比べると不良であり High Risk Pregnancyの一つとしてとりあつかわれている。

本調査では過去3年間に当院にて入院分娩した多胎妊娠52例（5胎妊娠1例を含む）の母児の臨床経過を retrospective に分析し、多胎妊娠のもつ周産期管理上の問題点について検討した。

1. 調査の結果

多胎妊娠の当院における発生頻度は表1に示したが、分娩総数3,301件中52件で1.58%、63件の分娩に1回の割合であった。これは他の報告者の約2倍の頻度であり、当院が地域における周産期医療の中核的立場をとっているためと思われる。

一方表2は多胎妊娠の周産期死亡率であるが、単胎児では出生1,000に対して12であるのに比べ、59と著しく高く、児の管理が困難であることを表している。これらの死亡例を検討してみると（表3）のごとく、RDS 1例、RDS+ASD 1例、原因不明の腹水1例、および子宮内での低酸素性脳障害3例である。

— 母体因子の検討 —

1. 血液の変化

図1に示すとおり21週以降になると赤血球数、Hb量、Ht値の急激な下降がおこり母体は貧血を呈するようになる。特にHb、Ht値は、分娩の時まで異常低値を示し、多胎妊娠での貧血治療の困難なことを示していた。

2. 妊娠中毒症の検討

多胎妊娠に合併した妊娠中毒症の3症状、高血圧、蛋白尿、浮腫について観察した。表4に示したように3症状のうち浮腫の出現が比較的早く、32週までに全例の14%にみられ、次いで蛋白尿、高血圧が出現するという傾向がうかがわれた。37週以降の例36例の検討では浮腫が61%、高血圧が44%、蛋白尿が36%に現れた。

— 児側因子の検討 —

1例のみ在胎26週の双胎例があり、1児をRDSで失っているが他は在胎33週以降に娩出されていた。（図2）

— 児の出生時体重の検討（図3） —

図のように1,501g以上がほとんどで、2,001～2,500gの間が最も多かった。出生時体重を、母体の高血圧合併例と非合併例とについて船川の曲線にそってプロットすると、表のごとく、高血圧合併群ではSFD14名、AFD24名であったのに対し、非高血圧群ではSFD15名、AFD49名であり、高血圧合併妊娠例ではSFDの出生する割合の高いことがうかがわれた。（表5）

ま と め

過去3年間における双胎妊娠57例について臨床的観察を行った。児の周産期死亡率は、単胎妊娠に比べて高く4.9倍であった。死亡6例の内訳は、児の未熟性によるRDSは2例のみで、子宮内低酸素性障害が3例にもみられ、妊娠、分娩中における胎児管理の重要性を認識した。

母体合併症として、貧血は妊娠21週以降に急速に現われ、Hb、Htは一般的治療にもかかわらず分娩時まで低値を示した。一方妊娠中毒症の合併も多く、まず浮腫が出現し、続いて高血圧、蛋白尿が出現した。また母体に高血圧があったものにはSFD出生の割合が高いことが観察された。

文 献

- 1) 外西寿彦, 池ノ上克, 蔵屋一枝
多胎と母体適応, 臨産, 32:8, 577, 1978
- 2) 外西寿彦, 多胎妊娠, 坂元正一他著, 産婦人科診療指針, あすへの婦人科展望, 金原出版, 1977
- 3) 外西寿彦, 産婦人科治療指針, 医学書院(in press)
- 4) 池ノ上克, 多胎児の取扱い, 今日の小児治療指針, 医学書院, 1978

表1 双胎発生頻度

佐藤 (1965)	0.87%	1:115
鈴木 (1965)	0.66%	1:160
金岡 (1972)	1.04%	1:96
兼子 (1975)	0.87%	1:114
竹村 (1976)	0.65%	1:154
塩島 (1976)	0.73%	1:134
鹿市立 (1977)	1.58%	1:63

表2 多胎妊娠の周産期死亡率

報告者	調査年度	単胎の死亡率 (%)	双胎の死亡率 (%)
雨森		2	7.2
塩島	昭47~50	2.9	5.9
金岡		1.9	13.4
兼子	昭42~48	1.9	9.3
外西	昭50~52	1.2	5.9

表3 双胎児死亡例

IRDS	1
IRDS + ASD	1
先天性腹水	1
低酸素性障害	3

図1 双胎例の血液性状の変化

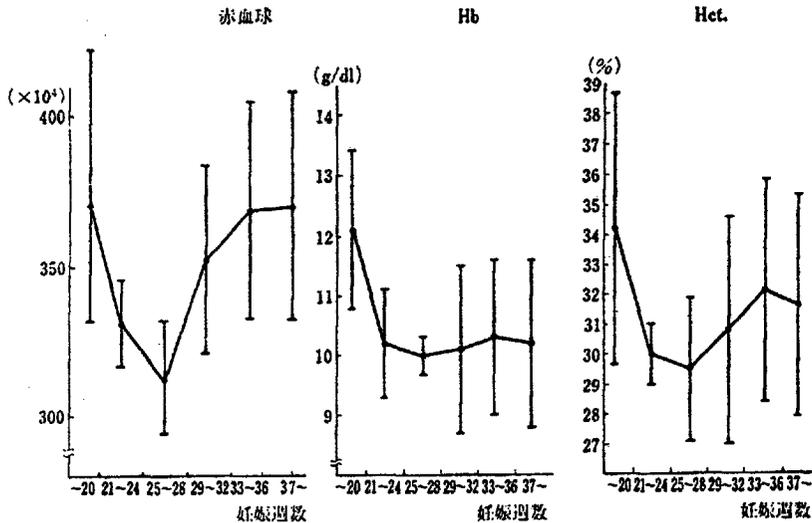


表4 高血圧, 蛋白尿, 浮腫の発生頻度

週数	~20	21~24	25~28	29~32	33~36	37~
総数	51	51	50	50	50	36
高血圧(%)	0	0	0	2 (4%)	11 (22%)	16 (44%)
蛋白尿(%)	0	0	1 ¹⁾ (2%)	1 (2%)	12 (24%)	13 (36%)
浮腫(%)	0	0	1 (2%)	7 (14%)	12 (24%)	22 (61%)

図2

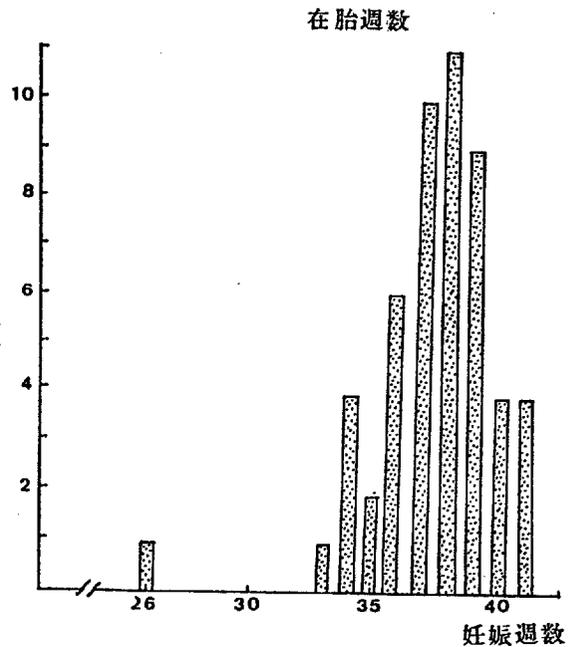


図3

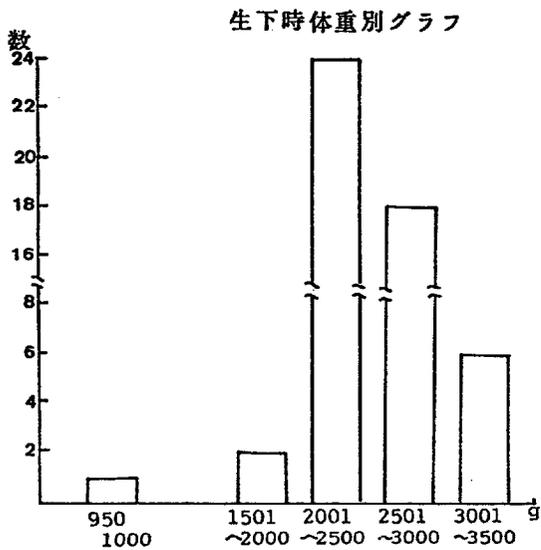
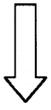


表5 Maternal Hypertension and Neonatal Birth Weight

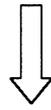
	SFD	AFD
Hypertensive	14	24
Non-Hypertensive	15	49

$P < 0.02$ by X^2



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



多胎妊娠は周産期の合併症を伴うことが多く、母児の予後も単胎妊娠に比べると不良であり High Risk Pregnancy の一つとしてとりあつかわれている。

本調査では過去 3 年間に当院にて入院分娩した多胎妊娠 52 例(5 胎妊娠 1 例を含む)の母児の臨床経過を retrospective に分析し、多胎妊娠のもつ周産期管理上の問題点について検討した。